

文章把握のために

Kapitel 1

世界最大の音楽イベントの一つに数えられるザルツブルク音楽祭。1920年8月22日にその歴史の幕を開けた。重要な人物は、舞台監督の Max Reinhardt、詩人の Hugo von Hofmannstahl、作曲家の Richard Strauss、指揮者・ピアニストの Herbert von Karajan（ザルツブルク生まれ）である。2020年に100周年の節目を迎えたが、折しも2020年はCovid-19のパンデミック真っ只中。プログラムが縮小されながらも、100周年記念の音楽祭は開催された（ただし、演目の一部は翌年に持ち越し）。

Kapitel 2

それまでの求職者を支援する社会保障「Hartz IV」に代わり、2023年1月に「市民手当」の制度がスタートした。求職者は、手当の受給だけでなく、資格取得のためのプログラムやパーソナルコーチングも受けられる。15歳を超えた、所得能力のある人であれば誰でも「市民手当」を受けられる。難民もその権利がある。ただ、「市民手当」には罰則もある。「市民手当」の給付基本額は502ユーロ。困窮者には到底足りないと批判もあり、2024年に向けては537ユーロまで引き上げられる検討もなされている。

Kapitel 3

Covid-19のパンデミックに対する社会的措置（公共交通機関におけるマスク着用義務、コロナ陽性テスト、ソーシャルディスタンスルール）がなされている間、学校も閉鎖になったり、ホームスクーリング（在宅でオンライン授業を受ける）も実施されたりした。学校では、パンデミックのために、学力が著しく低下したとの指摘、またその調査結果がある。学力低下だけでなく、子どもたちが強いストレスを抱えていることも明らかになり、スクールカウンセラーなどの人数が強化されることになっている。子どもたちをサポートする教員たちの支援も急務である。

Kapitel 4

19世紀に発明された洗濯機は、地下に置かれ、そこで洗濯物の洗濯、脱水、乾燥をするという形が伝統的である（あった）。しかし、近年では、地下に作業場が設けられない住宅も増えてきている。洗濯機は水を使うため、家の中でも水道につながったスペース（多くの場合、浴室か台所）にしか置けない。その場合、浴室の置けるのが便利ではあるが、浴室が狭ければ台所に置くことになる。それが、台所に洗濯機がある家庭もある理由である。とはいえ、調理と洗濯は区別したいものであるので、間仕切りを設けたり、洗濯機が隠せたりする仕様になっているシステムキッチンなどもある。

文章把握のために

Kapitel 5

ドイツ鉄道 (DB) の慢性的な遅延は、現在の人や貨物の動きや移動量に、鉄道網のインフラが追いついていないことが原因であるという。2022 年夏に実施された 9 ユーロチケットなどの、脱炭素を目指す施策の存在もある。車両自体も古くなりつつあり、扉が閉まらないなどのトラブルによる遅延も少なくない。他国と比べて、ドイツは鉄道交通への投資が多いとは言えない。今後、2025 年までの間に、長距離鉄道網や国際幹線の強化がなされる計画になっている。遅延が減るための工事ではあるが、当面は、その工事に起因する不通や遅延が見込まれる。

Kapitel 6

チョコレート製造はスイスが世界をリードしている。スイス最古のチョコレートブランドは Cailler で、その創業は 1819 年である。2021 年時点でのスイスチョコレートの輸出量は 13 万 9 千トン。その多くはドイツでも輸入されている。ドイツもチョコレート商品製造量は多く、チョコレート輸出大国の一つである。2021 年の統計では、人口 1 人あたりのチョコレート消費量は、スイスが 9.56kg、ドイツが 9.21kg で、ヨーロッパにおけるナンバー1・2であった。ドイツ最古の工場は Halle (Saale) にある Halloren で、ここには博物館があり、チョコレートの噴水が有名である。

Kapitel 7

気候変動に危機感を持って活動をしているとされる団体「ラスト・ジェネレーション」。そのウェブサイトには「私たちが、社会の崩壊を食い止められる最後の世代だ」とある。その活動は、交通封鎖 (妨害)、文化財や芸術の破損など、過激である。道路封鎖が原因とされる交通渋滞によって、救急車が足止めされ、患者が死亡したケースもあり裁判になっている。社会の拒絶反応も大きくなってきている。道路を封鎖すること、文化財や芸術を汚したり壊したりすることでどれほど気候を保護できるというのか、疑問である。

Kapitel 8

オーストリアの首都ウィーンでは、幼稚園スタッフの手が足りず、労働組合が行動を開始した。人材の不足率は 14%、不足する専門職員の数は 1 万~2 万人に達するという。ウィーン市内の幼稚園では、アシスタントが 1 人つくものの、職員 1 人が担当する子供の数は 25 人であり、かなりの過剰負担となっている。保育時間で割ると、一人の子供に割ける時間は 10 分にも満たない計算となる。教育職員は、教育に専念したいが、実際には幼稚園運営上の業務もあり、また清掃もこなさないとならないという。「子供とじっくり接したいのであって、清掃がしたいのではない」として、労働条件の悪さから、毎週のようにスタッフが退職している。

文章把握のために

Kapitel 9

連邦統計局のデータによると、2023年2月期の値段は、穀物製品が前年比で24.3%上昇、野菜は20%、牛肉は18%高騰している。飲食店では食材を保冷するのに多くのエネルギーを要するが、その光熱費も高騰している。調理にもエネルギーを使う。エネルギー代は輸送費にも関わるため、輸入品の価格も高くなっている。ドイツの国民食ともいえるケバブが3ユーロで買えた時代は終わり、いまや最も安価といえるブレーメンで平均値6.17ユーロ、ミュンヘンでは7.98ユーロ、「ケバブ首都」のベルリンで7.08ユーロとなっている。値上げを理解してくれる顧客ばかりではなく、高い値段を理由に離れていく顧客もいるため、店主たちは採算がとれ、顧客が離れていかない単価設定に苦慮している。

Kapitel 10

2人に1人は人生で罹る可能性があると言われていた病気、癌。癌にもいろいろな種類がある。15歳から19歳の若年層にも増えてきているという。怖い病気ではあるが、早期発見が治癒の可能性を高めてくれる。また、治療法も目を見張る進歩を遂げている。手術ロボットも進化し、化学・放射線療法の進歩も目覚ましい。新しい治療法も開発されている。今や、腫瘍が完全に消えることが可能になっている。